



第100期 中間報告書

平成23年4月1日～平成23年9月30日

参天製薬株式会社

証券コード 4536

コーポレートプロフィール

参天製薬は、眼科とリウマチ領域に特化したスペシャリティ・カンパニーとして、人々の目とからだの健康維持・増進に寄与しています。売上高の約80%を占める医療用眼科薬では、あらゆる眼科疾患に対する優れた医薬品の創製と医療現場のニーズに即した情報提供に取り組み、国内No.1の地位を獲得しています。当社は社名の由来でもある「天機に参与する」*という基本理念に基づき、目をはじめとする特定の専門分野に努力を傾注し、それにより参天製薬ならではの知恵と組織的能力を培い、患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として社会への貢献を果たしてまいります。

* 中国の古典、四書五経の1つである「中庸」の一節「天地の化育を賛く可ければ、則ち以って天地と参となる可し」を参天が独自に解釈したものです。

目次

株主の皆さまへ	1
2011—2013年度中期経営計画	3
第2四半期連結業績レポート	4
主要な医薬品開発状況一覧表	8
トピックス	9
四半期連結財務諸表	11
会社概要・株式情報	13

見通しに関する注意事項

この中間報告書は、参天製薬の戦略・計画・業績などに関する将来の見通しを含んでいます。この見通しは、現在入手可能な情報をもとにした当社経営者の判断に基づいています。実際の業績は、事業環境の変化、新薬の承認時期、為替レートの変動、行政動向などさまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととご拝察申し上げます。ここに、第100期の中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。



代表取締役社長 兼 CEO

黒川 明

参天製薬は、2020年までの長期的な経営ビジョンとして、「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現を掲げ、その第一ステップとして、2011年5月に「2011-2013年度中期経営計画」を発表いたしました。この中期経営計画では、スペシャリティ・カンパニーとしての競争力をより一層強化するために、グローバル戦略品の開発パイプラインの充実を図るとともに、事業開発のための投資を積極的に実施いたします。また、当社が強みを発揮できる日本をはじめ、高い市場成長が見込まれる欧州、中国での積極的な事業展開に取り組んでまいります。

計画1年目となる当第2四半期までの期間では、主力の国内医療用医薬品事業において、緑内障・高眼圧症治療剤「タプロス点眼液」、コンプト配合点眼液、ドライアイ治療剤「ジクアス点眼液」等の伸長に加えて、海外事業においても当社製品の市場浸透が進んだ結果、売上高は、前年同期から5.3%増加し567億8千9百万円、営業利益は、前年同期から3.2%増加し145億7千万円、経常利益は、前年同期から3.9%増加し150億5千万円、四半期純利益は、前年同期から6.8%増加し99億5百万円となりました。

当社は、中期経営計画の方針の一つである、グ

ローバル視点での研究・開発へ転換を進めています。このため、グローバル臨床開発の拠点を日本から米国に移行しました。今後は米国を中心に臨床開発を進めることで、POC*の成功確率を向上するとともに、臨床開発のスピードを加速してまいります。また、2011年9月に買収を発表した、フランスの製薬会社「ノバガリ・ファーマ社」は優れた研究開発力と製剤技術を有しており、当社の開発パイプラインの充実に貢献するとともに、欧州を含む海外事業の強化が図れると考えています。

参天製薬は、中期経営計画を確実に遂行することで、企業価値を持続的に拡大し、株主の皆さまの信頼に応えていく所存です。

なお、中間配当金につきましては、1株当たり50円とさせていただきます。

株主の皆さまにおかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年11月

* Proof of Concept：新薬候補物質の製品コンセプトの妥当性を、臨床試験において有効性や安全性の面から実際に確認すること

2011—2013年度中期経営計画

参天製薬は長期的な経営ビジョンとして「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現を掲げ、2020年までにグローバル医療用眼科薬市場で3位以内に入ることを目指しています。その実現に向けた第一ステップとして、「2011—2013年度中期経営計画」を発表しました。この中期経営計画では、スペシャリティ・カンパニーとしての競争力をより一層強化するために、グローバル戦略品の開発パイプラインの強化を図るとともに、当社が強みを発揮できる日本、高い市場成長が見込まれる欧州、中国での積極的な事業展開に取り組みます。

主な戦略としては、研究開発分野において、中長期での成長のドライバーとなる新製品パイプラインの充実を図るた

め、グローバル視点での研究・開発へ転換を推進し、新製品開発における競争力を強化するとともに、積極的な事業開発を展開していきます。また、国内市場においては、緑内障、角膜疾患治療領域での主力製品および新製品の価値最大化を推進することで、持続的な成長を実現します。海外事業では、欧州、アジアを中心に営業基盤を拡充することで、高い成長を引き続き目指すとともに、新興市場についても事業の可能性を検討してまいります。さらに、グローバルレベルで生産ラインの効率化を推進し、高い競争力を有する製品供給体制を構築するとともに、グローバルに対応できる人材の育成を積極的に進めてまいります。

I. 基本方針

「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現

1. グローバル視点での研究・開発へ転換
2. 新製品と営業戦略による国内でのシェア獲得と事業成長
3. 積極的な営業体制強化によるアジア事業、欧州事業の高成長
4. 世界4工場*体制への円滑な移行と新興市場に対応した体制の構築
5. グローバルに創造と革新を担う組織強化・人材開発

* 能登・滋賀・蘇州(中国)・タンペレ(フィンランド)の4工場

II. 数値目標

	2013年度目標
連結売上高	1,210億円以上
営業利益	310億円以上
当期純利益	200億円以上
研究開発費	155億円程度
DOE(株主資本配当率)	5%を目処

III. 株主還元方針

- 継続的かつ安定的な株主還元策を実施します。
- 研究開発、設備投資、事業開発等、成長のための資金を確保します。
- 自己株式の取得を機動的に実施します。
- 利益成長に応じた配当政策により株主資本配当率(DOE)5%を目指します。

第2四半期連結業績レポート

当第2四半期までの概況 (平成23年4月1日～平成23年9月30日)

業績の状況

国内医療用眼科薬市場は、抗アレルギー剤、網膜疾患治療剤および角結膜疾患治療剤の伸長により、前年同期と比べ拡大しました。一方、海外医療用眼科薬市場は、アジアでは堅調に推移しました。国内一般用眼科薬市場は、需要の減少により、前年同期と比べ縮小しました。

このような状況下、当第2四半期の業績は、以下のとおり増収増益となりました。

(単位 百万円)

	当第2四半期 累計	前第2四半期 累計	前年同期 増減率
売上高	56,789	53,914	5.3%
営業利益	14,570	14,112	3.2%
経常利益	15,050	14,490	3.9%
四半期純利益	9,905	9,272	6.8%

売上高は、前年同期から5.3%増加し567億8千9百万円となりました。

これは、主力の国内医療用医薬品事業において、緑内障・高眼圧症治療剤「タプロス点眼液」・「コソプト配合点眼液」、ドライアイ治療剤「ジクアス点眼液」等の成長に加えて、海外における普及促進活動により、当社製品の市場浸透が進んだことによるものです。

営業利益は、前年同期から3.2%増加し145億7千万円となりました。

売上原価は177億6千7百万円となり、売上原価率は31.3%となりました。販売費および一般管理費については244億5千1百万円となり、このうち研究開発費は76億2百万円となりました。

経常利益は、前年同期から3.9%増加し150億5千万円となりました。

四半期純利益は、前年同期から6.8%増加し99億5百万円となりました。

連結売上高



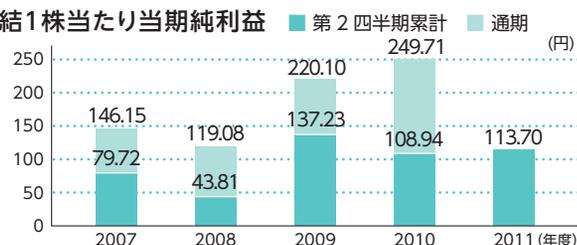
連結営業利益



連結当期純利益



連結1株当たり当期純利益



第2四半期連結業績レポート

セグメント別業績の状況

参天製薬グループは、医薬品事業とその他事業の二つのセグメントから構成されます。売上高の多くは医薬品事業によっており、その全売上高に占める比率は97.2%になります。

医薬品事業の売上高は、前年同期から4.3%増加し552億2千4百万円となりました。営業利益は、141億9千5百万円となりました。一方、その他事業の売上高は、眼内レンズ「エタニティー」が順調に市場に浸透した結果、前年同期から64.6%増加し15億6千4百万円となりました。営業利益は、3億7千5百万円となりました。

医薬品事業

医療用医薬品

●眼科薬<国内>

医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医

薬情報提供などの普及促進活動を展開し、国内医療用眼科薬の売上高は、前年同期と比べ3.4%増加し386億8千7百万円となりました。

緑内障・高眼圧症の治療ニーズに合致した新製品「タプロス点眼液」は順調に市場浸透した結果、売上高は前年同期と比べ8.1%増加し35億5千4百万円となりました。

角結膜疾患治療剤領域では、ドライアイ（眼球乾燥症候群）などに伴う角結膜上皮障害の治療剤「ヒアレイン点眼液」が、患者さんのQOL（生活の質）を高める製品特性と、患者さんや医療現場に対するドライアイの疾患啓発活動などにより順調な伸びを示し、売上高は、前年同期と比べ4.7%増加し97億9千7百万円となりました。また、平成22年4月にドライアイ治療剤として日本での製造販売承認を取得した新製品



(単位 百万円)

	国内		海外		合計	
	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率
医薬品事業	46,778	3.4%	8,446	9.3%	55,224	4.3%
医療用医薬品	44,336	3.8%	8,441	9.3%	52,778	4.6%
うち眼科薬	38,687	3.4%	8,249	10.5%	46,937	4.6%
うち抗リウマチ薬	5,073	1.7%	84	45.5%	5,157	2.2%
うちその他医薬品	575	78.6%	107	△ 46.7%	682	30.4%
一般用医薬品	2,441	△ 2.4%	4	△ 11.2%	2,446	△ 2.4%
その他事業	923	35.9%	641	136.5%	1,564	64.6%
医療機器	917	36.2%	641	136.5%	1,558	65.0%
その他	5	6.1%	—	—	5	6.1%
合計	47,701	3.9%	9,087	13.6%	56,789	5.3%

(注)各セグメントの売上高は、外部顧客に対する売上高を表しています。

「ジクアス点眼液」は、平成22年12月に発売を開始し、売上高は11億2千1百万円となりました。

合成抗菌点眼剤領域では、市場環境の変化などにより、「クラビット点眼液」、「タリビッド点眼液」両剤合わせた売上高は、前年同期と比べ5.3%減少し67億2千3百万円となりました。

抗アレルギー点眼剤領域では、引き続き医薬情報提供活動に注力し、加えてスギ花粉の飛散が前年同期と比べ大規模であったため、「リボスチン点眼液」の売上高は、前年同期と比べ9.7%増加し11億9千6百万円となりました。



● 眼科薬<海外>

海外における医療用眼科薬の売上高は、円換算ベースで前年同期と比べ10.5%増加し82億4千9百万円となりました。

欧州では医薬情報提供などの普及促進活動に注力した結果、ドイツにおいて新製品の緑内障・高眼圧症治療剤「タフトタン」が市場に浸透してきました。

アジアにおいても、普及促進活動の展開により、中国、韓国を中心に、当社製品の市場浸透が進みました。

● 抗リウマチ薬

抗リウマチ薬の売上高は、「リマチル錠」、「アザルフィジンE N錠」ならびに「メトレート錠」が、国内において関節リウマチ治療ガイドラインで強く推奨される製剤に位置付けられていることもあり、前年同期と比べ2.2%増加し51億5千7百万円となりました。

● その他医薬品

その他医薬品には、技術提携(導出)契約に基づく収入、受託製造等が含まれます。

その他医薬品の売上高は、前年同期と比べ30.4%増加し6億8千2百万円となりました。

一般用医薬品

一般用医薬品の売上高は、サンテFX発売20周年記念キャンペーンを中心に販売促進活動に注力しましたが、国内における需要の減少や競合の影響もあり、前年同期と比べ2.4%減少し24億4千6百万円となりました。



その他事業

医療機器

医療機器の売上高は、高屈折率のアクリル素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズ「エタニティー」の普及促進活動に注力した結果、前年同期から65.0%増加し15億5千8百万円となりました。

その他

その他の売上高は、(株)フレール(連結子会社)での無塵・無菌服のクリーニング業によるものであり、5百万円となりました。

研究開発活動

参天製薬グループは、中長期的な成長の源泉として研究開発を重視しており、眼科薬を中心とした積極的な臨床開発活動を進めています。

緑内障・高眼圧症領域において、プロスタグランジンF_{2α}誘導体DE-085(一般名:タフルプロスト)は、平成20年12月より日本で「タプロス点眼液」として販売中です。欧州では平成20年6月のドイツに始まり、現在、20カ国で自社販売しています。アジアにおいては、平成22年3月以降、香港、韓国に続き、新たにインドネシア、シンガポールで発売しています。中国では承認申請中です。また、平成21年4月には、メルク社(米国)とのライセンス契約締結により、西欧(ドイツを除く)、北米、南米、アフリカにおける販売権をメルク社に許諾しました。メルク社は平成21年9月以降、イギリス、スペイン、イタリアなど合計11カ国でタフルプロストを販売しており、米国で承認申請中です。この結果、タフルプロストの販売国は、全世界で36カ国となっています。

緑内障・高眼圧症を適応症とするDE-111(一般名:タフルプロスト/チモロールマレイン酸塩)は、日本と欧州で第Ⅲ相試験を実施中です。また、緑内障・高眼圧症を適応症とするアデノシンA_{2A}受容体作動薬DE-112(一般名:未定)は、第I相/前期第Ⅱ相試験を米国で実施中です。

角結膜疾患(ドライアイを含む)領域において、DE-089(一般名:ジクアホソルナトリウム)は、平成22年12月より日本で「ジクアス点眼液」として販売しています。また、韓国では承認申請中であり、中国でも承認申請準備中です。ドライアイを含む角結膜上皮障害を適応症とするDE-101(一般名:リボ

グリタゾン)は、涙液の状態を改善する薬剤として、米国で第Ⅱ相試験を開始しました。また、遷延性角膜上皮欠損を適応症とするDE-105(一般名:未定)は、日本で第Ⅱ相試験を実施中です。さらに、選択的グルココルチコイド受容体作動薬DE-110(一般名:未定)も、ドライアイを含む角結膜上皮障害を対象とする第Ⅱ相試験を米国で実施中です。

網膜疾患領域において、糖尿病黄斑浮腫を適応症とするDE-102(一般名:ベタメタゾン)は、第Ⅱ相/第Ⅲ相試験を日本で実施中です。また、DE-109(一般名:シロリムス)は、米国でぶどう膜炎を適応症とする第Ⅲ相試験を実施中です。

外眼部感染症を適応症とするDE-108(一般名:レボフロキサシン(1.5%))は、平成23年6月より「クラビット点眼液1.5%」として、日本で発売しています。

アレルギー性結膜炎を適応症としたDE-114(一般名:エピナスチン塩酸塩)は、日本で第Ⅲ相試験を実施中です。

関節リウマチを適応症とするDE-098(一般名:未定)は、日本で第Ⅱ相試験を実施中です。



主要な医薬品開発状況一覧表

(平成23年11月現在)

一般名	開発コード	効能・効果	地域	フェーズ			申請	承認	発売	特長など
				1	2	3				
角結膜疾患領域										
リボグリタゾン	DE-101	角結膜上皮障害 (ドライアイを含む)	米国							抗炎症作用などに基づく涙液の質および量の改善効果を期待。米国にてフェーズ2試験を開始。
未定	DE-105	遷延性角膜上皮欠損	米国 日本							既存療法では難治性の遷延性角膜上皮欠損に対し、角膜上皮細胞伸展促進作用により、角膜上皮欠損を修復する効果と高い安全性を期待。
未定	DE-110	角結膜上皮障害 (ドライアイを含む)	米国							選択的グルココルチコイド受容体作動薬(SEGRA)。ドライアイを含む角結膜上皮障害を対象として、米国にてフェーズ2試験を実施中。
ジクアホルナトリウム	DE-089	ドライアイ	日本 アジア				2010年12月 2011年3月			角結膜上皮からムチンや水分の分泌を促すドライアイ治療剤。既存薬と異なる作用機序を持つ。2010年12月、日本にて発売。韓国で承認申請中、中国では承認申請準備中。
緑内障領域										
タフルプロスト	DE-085	緑内障・ 高眼圧症	日本 欧州 米国 (導出) チリ/メキシコ (導出) アジア				2008年12月 2008年6月 2010年8月 2010年3月			プロスタグランジンF _{2α} 誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。2008年12月、国内での販売開始。欧州では、ドイツ、デンマーク等で販売中。2009年4月、米国等での開発権をメルク社(米国)に許諾。アジアでは香港、韓国、インドネシア、シンガポールにて発売中。中国で承認申請中。
タフルプロスト/ チモロールメリン酸塩	DE-111	緑内障・ 高眼圧症	日本 欧州							プロスタグランジンF _{2α} 誘導体およびβ遮断剤の配合剤。
未定	DE-112	緑内障・ 高眼圧症	米国	(フェーズ 1/2a)						高い選択性を持つアデノシンA _{2A} 受容体作動薬。プロスタグランジン系とは異なり、主経路(線維柱帯)からの房水流出を促進する新規作用機序の緑内障・高眼圧症治療剤。
ロメリジン塩酸塩	DE-090	緑内障	日本							視野欠損の進行抑制作用を有する新しい緑内障治療剤。カルシウム拮抗作用に基づく経口緑内障薬としては、唯一の開発薬剤。NMDA受容体拮抗剤と異なり、全身性の副作用が軽微であり、高い安全性を有する。
網膜疾患領域										
ベタメタゾン	DE-102	糖尿病黄斑浮腫	日本	(フェーズ2/3)						ドラッグデリバリーシステム概念を取り入れたステロイドマイクロスフェア製剤。研究段階では眼局所への投与により長く安定した薬効持続性を確認。商業用スケールでの製造技術開発でオークウッド社(米国)と提携。
シロリムス	DE-109	ぶどう膜炎	米国							免疫抑制作用、血管新生抑制作用などを有する硝子体内注射剤。2010年6月に全世界での開発・製造・販売権を取得。
眼感染症・アレルギー疾患領域										
レボフロキサシン(1.5%)	DE-108	外眼部感染症	日本				2011年6月			ニューキノロン系抗菌薬の高濃度製剤。2011年6月、日本にて発売。
エピナスチン塩酸塩	DE-114	アレルギー性結膜炎	日本							H1拮抗作用と膜安定化作用を併せ持つアレルギー性結膜炎治療剤。
リウマチ領域										
未定	DE-098 (抗APO-1抗体)	関節リウマチ	日本							RA患者の罹病関節内でアポトーシスを誘導する関節注入剤。セントコア社(米国)から抗APO-1抗体の国内外での開発販売権を導入。

フェーズ1 (臨床第1相試験)：少数の健康人志願者を対象に安全性を確認する試験
 フェーズ2 (臨床第2相試験)：少数の患者さんを対象に投与量や投与方法を確認する試験
 フェーズ3 (臨床第3相試験)：多数の患者さんを対象に既存薬やプラセボ(偽薬)と比較して安全性・有効性を確認する試験

フランスの製薬会社「ノバガリ・ファーマ社」を買収

2011年9月、参天製薬はフランスの製薬会社であるノバガリ・ファーマ社(以下、ノバガリ社)と株式譲渡契約を締結し、同10月にノバガリ社の発行済株式の約50.55%を取得しました。今後、本契約合意内容およびフランス金融市場庁の規則に基づき公開買付を実施し、ノバガリ社の発行済株式の100%の取得を目指します。ノバガリ社は、高い研究開発力と、Novasorb®技術*を含む優れた製剤技術を有しています。これらの技術を当社の開発品に適用することで、臨床効果を高めることが可能となり、競争力の向上に繋がると考えています。また、ノバガリ社が開発を進めているCyclokat®(一般名:シクロスポリン)は、Novasorb®技術を使用した世界的に数少ないドライアイ領域の後期開発品です。今後、Cyclokat®は、欧州における初の医療用ドライアイ治療剤として、上市されることが期待されています。

ノバガリ社が参天製薬グループの一員となることで、当社の製品競争力の向上と、欧州におけるドライアイ領域でのパイプラインの強化を実現し、事業基盤の強化が図れるものと考えています。

NOVAGALI
P H A R M A

* 乳化点眼剤に正電荷を付与する技術で、それにより薬剤の眼表面滞留性と眼内移行性を高めるためのもの

グローバル臨床開発拠点を米国へ

当社は、中期経営計画の方針の一つとして、グローバル視点での研究・開発への転換を進めています。このため、グローバル臨床開発の拠点を日本から米国へ移行しました。今後は、POC*確立までのプロセスを米国中心に行い、後期臨床開発段階で、日本や欧州、アジアへ展開することで、POCの成功確率の向上と、開発スピードの加速を図ります。なお、米国の子会社であるサンテン・インクが、今後は臨床開発の中心的役割を担うこととなるため、臨床開発分野での人員の増強を図るとともに、国際交通の利便性を考慮し、2011年7月にサンテン・インク本社をサンフランシスコ近郊のエメリービル地区へ移転しました。

* Proof of Concept : 新薬候補物質の製品コンセプトの妥当性を、臨床試験において有効性や安全性の面から実際に確認すること



サンテン・インク新本社が入居するサンフランシスコ近郊のビル

広範囲抗菌点眼剤「クラビット点眼液1.5%」新発売

2011年6月、広範囲抗菌点眼剤「クラビット点眼液1.5%」を日本国内で発売しました。この製品は、2000年より発売している「クラビット点眼液0.5%」の有効成分であるレボフロキサシン濃度を1.5%に増加した点眼剤です。「クラビット点眼液0.5%」は既に外眼部感染症に対して、優れた治療効果および高い安全性が評価されていますが、「クラビット点眼液1.5%」は、高い眼組織内移行を示すことが確認されており、より高い臨床効果を発揮する広範囲抗菌点眼剤として、患者さんのQOL(生活の質)向上に貢献できるものと考えています。



インドに現地法人「サンテン・インディア・プライベート・リミテッド」設立

2011年7月、インド南部の中核都市バンガロールに、現地法人「サンテン・インディア・プライベート・リミテッド」を設立しました。人口12億人を有し、近年、高い経済成長を果たしているインドは、今後も継続した成長が期待されています。医薬品市場においても、疾病構造の変化や医療インフラの改善、医療に対する認知度の向上や個人所得の増加等により、大幅な成長が見込まれています。当社は、インド現地法人設立により、眼科薬市場での参天ブランドの浸透に努め、プレゼンスの確立を目指します。なお、当面は開発・製造面も含めた事業機会の探索を中心に活動していきます。



四半期連結貸借対照表

科目	当第2四半期	前期	増減額
	平成23年9月30日現在	平成23年3月31日現在	
資産の部			
流動資産	142,285	137,668	4,617
現金及び預金	69,991	65,558	4,433
受取手形及び売掛金	38,973	38,980	△ 7
有価証券	13,450	13,332	118
たな卸資産	15,421	14,704	717
その他	4,449	5,091	△ 642
固定資産	46,174	47,133	△ 959
有形固定資産	24,827	24,956	△ 129
建物及び構築物	12,951	13,450	△ 499
土地	8,203	8,216	△ 13
その他	3,672	3,289	383
無形固定資産	966	991	△ 25
投資その他の資産	20,380	21,185	△ 805
投資有価証券	11,788	12,141	△ 353
その他	8,592	9,043	△ 451
資産合計	188,459	184,801	3,658

(単位 百万円)

科目	当第2四半期	前期	増減額
	平成23年9月30日現在	平成23年3月31日現在	
負債の部			
流動負債	22,293	24,104	△ 1,811
支払手形及び買掛金	5,314	6,031	△ 717
未払金	7,647	8,444	△ 797
未払法人税等	5,205	4,631	574
その他	4,125	4,997	△ 872
固定負債	4,009	4,292	△ 283
退職給付引当金	3,387	3,266	121
その他	621	1,026	△ 405
負債合計	26,302	28,397	△ 2,095
純資産の部			
株主資本	167,824	162,159	5,665
資本金	6,670	6,614	56
資本剰余金	8,025	7,968	57
利益剰余金	153,131	147,578	5,553
自己株式	△ 3	△ 1	△ 2
その他の包括利益累計額	△ 6,017	△ 6,061	44
新株予約権	350	305	45
純資産合計	162,156	156,404	5,752
負債純資産合計	188,459	184,801	3,658

四半期連結損益計算書

(単位 百万円)

	当第2四半期累計 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	前第2四半期累計 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	増減額
売上高	56,789	53,914	2,875
売上原価	17,767	17,435	332
売上総利益	39,021	36,478	2,543
販売費及び一般管理費	24,451	22,366	2,085
営業利益	14,570	14,112	458
営業外収益	506	486	20
営業外費用	27	107	△ 80
経常利益	15,050	14,490	560
特別利益	61	6	55
特別損失	22	113	△ 91
税金等調整前四半期純利益	15,088	14,383	705
法人税、住民税及び事業税	5,015	4,537	478
法人税等調整額	167	573	△ 406
少数株主損益調整前四半期純利益	9,905	9,272	633
四半期純利益	9,905	9,272	633

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 百万円)

	当第2四半期累計 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	前第2四半期累計 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	9,327	6,294	3,033
投資活動による キャッシュ・フロー	1,416	△ 5,769	7,185
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 4,244	△ 3,594	△ 650
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△ 267	△ 463	196
現金及び現金同等物の 増減額	6,231	△ 3,532	9,763
現金及び現金同等物の 期首残高	72,482	64,348	8,134
現金及び現金同等物の 四半期末残高	78,714	60,815	17,899

会社概要

社名	参天製薬株式会社
本社	〒533-8651 大阪市東淀川区下新庄三丁目9番19号 TEL:06-6321-7000 (代表) 06-6321-7007 (IR専用) FAX:06-6321-8400
創業	1890年
設立	1925年
資本金	6,670百万円
工場	能登、滋賀、大阪
研究所	奈良研究開発センター
従業員数	2,946名

取締役、監査役および執行役員

取締役

代表取締役社長 兼 CEO	黒川 明
取締役 専務執行役員 米国・欧州事業管掌 研究開発本部長	西畑 利明
取締役 専務執行役員 日本・アジア事業管掌 医薬事業部長	古門 貞利
社外取締役 (医療ビジネスコンサルタント)	村松 勲
社外取締役 (経営コンサルタント)	古谷 昇
社外取締役 (大学教授)	奥村 昭博

監査役

常勤監査役	納塚 善宏
社外監査役 (経営コンサルタント)	佐藤 康夫
社外監査役 (他社非常勤監査役)	土屋 泰昭
社外監査役 (他社取締役)	水野 裕

執行役員 (取締役による兼務を除く)

執行役員 企画本部長	佐藤 正道
執行役員 サンテン・オイ取締役社長	ユルキ・リリエロース
執行役員 人材組織開発・CSR本部長	森島 健司
執行役員 管理本部長	原田 哲
執行役員 生産物流本部長	太田 淳稔
執行役員 信頼性保証本部長	木村 章男
執行役員 サンテン・インクCOO	辻村 明広

子会社一覧

(株)クレール

事業内容：無塵・無菌服のクリーニング
出資比率：100%

サンテン・ホールディングス・ユーエス・インク

事業内容：北米における持株会社、事業開発
出資比率：100%

サンテン・インク

事業内容：医薬品の臨床開発、事業開発
出資比率：100%*

アドバンスド・ビジョン・サイエンス・インク

事業内容：医療機器の開発・製造・販売
出資比率：100%*

サンテン・オイ

事業内容：医薬品の臨床開発・製造・販売
出資比率：100%

サンテンファーマ・エービー

事業内容：医薬品の販売支援
出資比率：100%

サンテン・ゲーエムベーハー

事業内容：医薬品の販売、事業開発
出資比率：100%

台湾参天製薬(股)

事業内容：医薬品の輸入・販売
出資比率：100%

韓国参天製薬(株)

事業内容：医薬品の輸入・販売
出資比率：100%

参天製薬(中国)有限公司

事業内容：医薬品の臨床開発・製造・販売
出資比率：100%

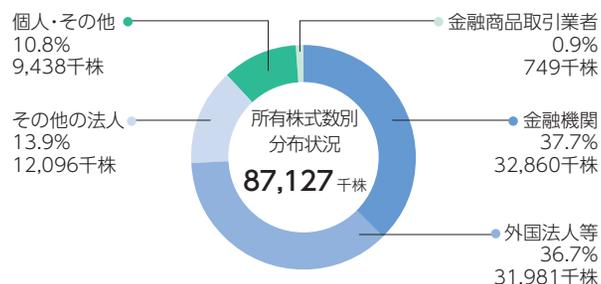
サンテン・インディア・プライベート・リミテッド

事業内容：医薬品の市場調査
出資比率：99.9%、0.1%*

* サンテン・ホールディングス・ユーエス・インクを通じた間接出資

株式の状況

発行可能株式総数	220,000,000株
発行済株式総数	87,127,603株
単元株式数	100株
株主数	8,760名



大株主の状況 (上位10社)

株主名	所有株式数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	12,458	14.3
三田産業株式会社	4,756	5.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	4,248	4.9
ステートストリートバンクアンド トラストカンパニー505223	3,387	3.9
株式会社日本政策投資銀行	3,310	3.8
日本生命保険相互会社	2,721	3.1
株式会社三菱東京UFJ銀行	2,120	2.4
アールピーシーデクシアインベスターサービ シーズトラスト、ロンドンレンディングアカウント	2,080	2.4
資産管理サービス信託銀行株式会社	1,984	2.3
ザチェースマンハッタンバンクエヌエイ ロンドンエスエルオムニバスアカウント	1,685	1.9

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載URL： http://www.santen.co.jp/jp/pn
証券コード	4536
上場証券取引所	東京証券取引所、大阪証券取引所
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL：0120-094-777

株式に関するお手続き等について

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)にお問い合わせください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行の本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いいたします。

〈お問い合わせ先〉

参天製薬株式会社

コーポレート・コミュニケーショングループ

〒533-8651 大阪市東淀川区下新庄三丁目9番19号
TEL：06-6321-7000 (代表) FAX：06-6321-8400
TEL：06-6321-7007 (IR専用)

Email：ir@santen.co.jp URL：<http://www.santen.co.jp>

※ ホームページに最新の情報を掲載しております。ぜひご覧ください。



100%再生紙と植物油インキを使用しています。
※この冊子は、高齢の方にも見やすい文字(UDフォント)を使用しています。